

電 力 情 報

NO. 24

平成 22 年 6 月 24 日

東 北 電 力 (株)

5 月分の電力需給実績について

1. 電力需要について (表 - 1 参照)

5 月分の販売電力量は、65 億 1,800 万 kWh、対前年比 108.2% の実績となりました。これを用途別にみますと、以下のとおりです。

特定規模需要以外の需要 (自由化対象以外のお客さま)

電灯は、前年よりも検針期間が長かったことに加え、4 月の気温が低めに推移したことによる暖房需要の増加などから、対前年比 111.1% と前年を上回る実績となりました。

特定規模需要以外の需要の合計では、対前年比 110.3% の実績となりました。

特定規模需要 (自由化対象のお客さま)

業務用電力は、前年よりも 4 月の気温が低めに推移したことによる暖房需要の増加などから、対前年比 101.7% と、前年を上回る実績となりました。

特定規模需要の合計では、対前年比 107.0% の実績となりました。

なお、産業用その他電力については、大口電力が大きなウエートを占めており、その概要は以下の参考のとおりです。

[参 考]

大口電力

大口電力は、生産回復の動きに加え、平成 21 年 5 月分が大きく前年実績を下回った反動などから、対前年比 110.6% の実績となり、6 カ月連続で前年実績を上回りました。

2. 供給力について（表 - 2 参照）

5月の発受電電力量の合計は67億4,800万kWhとなり、対前年比104.3%の実績となりました。

（自社水力）

融雪出水が多かったことなどから、出水率108.8%の豊水となりました。

発電量は、前年を1億5,000万kWh上回る9億7,200万kWhとなりました。

（自社火力）

原子力の発電量の増加などにより、発電量は前年を9億900万kWh下回る21億7,300万kWhとなりました。

（自社原子力）

前年との運転状況の違いにより、発電量は前年を8億6,200万kWh上回る20億7,600万kWhとなりました。

（自社新エネルギー等）

地熱発電所の前年との運転状況の違いにより、発電量は前年を2,000万kWh上回る9,700万kWhとなりました。

（他社受電）

他社発電所の前年との運転状況の違いなどから、他社受電合計では前年を1億8,200万kWh上回る20億5,600万kWhとなりました。

電気関係報告規則等の一部を改正する省令（平成22年3月31日 経済産業省令第20号）により、発電量等に関する国への報告様式が変更になり、新エネルギー等（風力、太陽光および地熱）の発電量は別掲することとなりました。これにあわせ、当社の報道発表資料につきましても、地熱発電の発電量を「自社新エネルギー等」として別記しております。

以 上